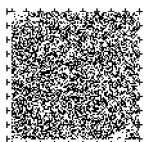
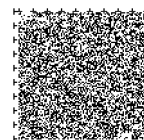


第2編 「スポーツ都市東京」の実現のための取組

スポーツ都市東京 TOKYO



第1章 目標達成に向けた施策展開



スポーツを通じた健康長寿の達成

将来イメージ

都民の誰もが、気軽にスポーツに親しむことによって、心身の健康が維持・増進し、いきいきと生活しています。

達成指標

都民の心身の健康を維持・増進させていくために、効果的なスポーツを継続的に実施してもらうこと等を指標としていきます。

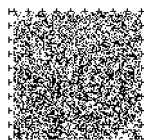
達成指標			
項目	現状	2020年	2024年度
1年間にスポーツを実施しなかった都民（18歳以上）の割合	15.0%	7.5%	7.5%を維持
スポーツが「嫌い」「やや嫌い」と回答する中学2年生の割合	男子 11.8% 女子 21.8%	—	男子 5% 女子 10%
1年間にスポーツを支える活動*を行った都民（18歳以上）の割合	13.1%	20%	20%を維持

目標達成に向けた施策展開の考え方

スポーツに対する興味・関心や実施の度合いは人それぞれであり、各状況に応じた効果的な施策展開により、都民の継続的なスポーツ実施に結び付けていきます。

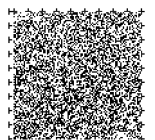


* スポーツを支える活動：スポーツの指導やスポーツボランティアの実施、子供のスポーツの見守り等、スポーツを行う人を支援する活動を言います。（詳細はP.38 参照）



目標達成に向けた政策指針と施策展開

具体的な施策展開		関心喚起策	実行促進策	継続支援策	
するスポーツ	政策指針01 01 スポーツをすることへの関心喚起	都民へのスポーツ情報支援・情報発信	●	●	
		スポーツが健康に与える効果・効用の普及啓発	●		
		児童・生徒の体力の把握と活用	●		
	政策指針02 02 スポーツを始める機会の創出	多様なスポーツイベントの開催	●	●	
		区市町村等が実施するスポーツイベント等への支援		●	
	政策指針03 03 スポーツを身近でできる場の確保	都立スポーツ施設の管理運営		●	●
		身近な場所でのスポーツ環境の整備		●	●
	政策指針04 04 成長段階にある児童・生徒の体力向上	学校における運動量の十分な確保と優れた実践の普及	●	●	
		運動部活動の振興		●	●
	政策指針05 05 競技力向上の取組を通じたスポーツ実施の推進	才能ある選手の発掘	●	●	
	東京育ちのアスリートの競技力向上		●	●	
	アスリートの競技力向上のサポート			●	
	アスリートのスポーツキャリア形成支援			●	
みるスポーツ	政策指針06 06 スポーツをみることの魅力発信	様々な競技の紹介	●		
	政策指針07 07 スポーツをみる機会の創出	スポーツをみる機会の創出		●	●
支えるスポーツ	政策指針08 08 スポーツを支える人材の育成	東京 2020 大会に向けたボランティアの裾野拡大	●	●	
		スポーツの裾野を拡大する人材の育成		●	●
	政策指針09 09 スポーツによる事故防止等の推進	けがや事故、熱中症等の予防推進	●	●	●
		スポーツにおける暴力行為や薬物等の根絶		●	●
政策指針10 10 スポーツを支える都民の顕彰等	スポーツを支える都民の顕彰等			●	



スポーツをすることへの関心喚起

現状と課題

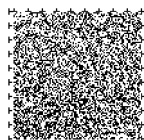
平成 28（2016）年に実施した「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（以下「都民のスポーツ実施調査（平成 28 年度）」という。）によると、週に1回以上スポーツを実施した都民の割合であるスポーツ実施率は 18 歳以上で 56.3%でした。スポーツを実施できなかった人にその理由を聞いたところ、最も多い回答が「仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから」（43.2%）でしたが、「スポーツ・運動が好きではないから」（11.4%）や「特に理由はない」（12.8%）といった、そもそもスポーツに関心を持っていないことが伺える回答も見られました。こうしたスポーツへの関心の低下は、前回調査した平成 26（2014）年度から増加傾向にあります。

一方で、スポーツを実施した人に実施した理由を聞いたところ、「健康・体力づくりのため」（67.2%）、「運動不足を感じるから」（49.2%）という、自身の健康に関する回答が多くありました。この傾向は前回調査から変わりありません。

価値観が多様化している現在において、スポーツ以外のことに関心を持っている人も大勢いると思いますが、スポーツには健康増進への効果をはじめ、他では得ることができないものがあります。まずは、そうしたことを知ってもらうことによって、スポーツをすることへの関心を喚起して行く必要があります。

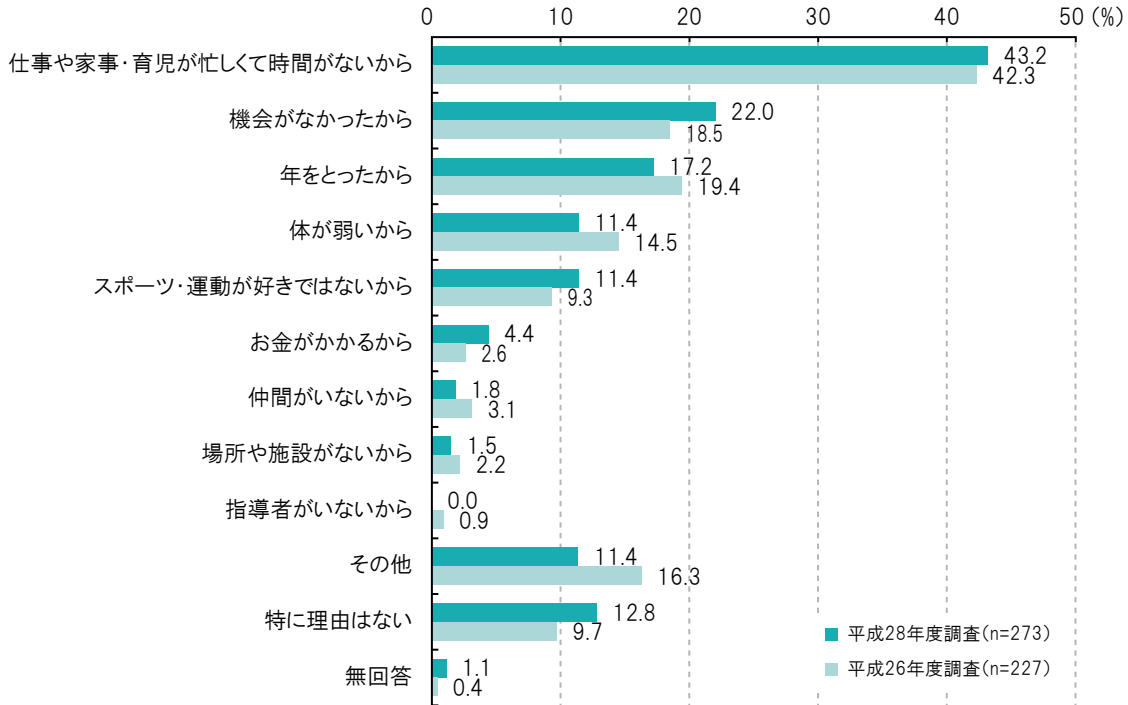
今後の方向性

**都民のスポーツへの関心を高めるため、
スポーツの効果や効用等を積極的に発信するとともに、
児童・生徒の体力や運動能力を的確に把握していきます。**

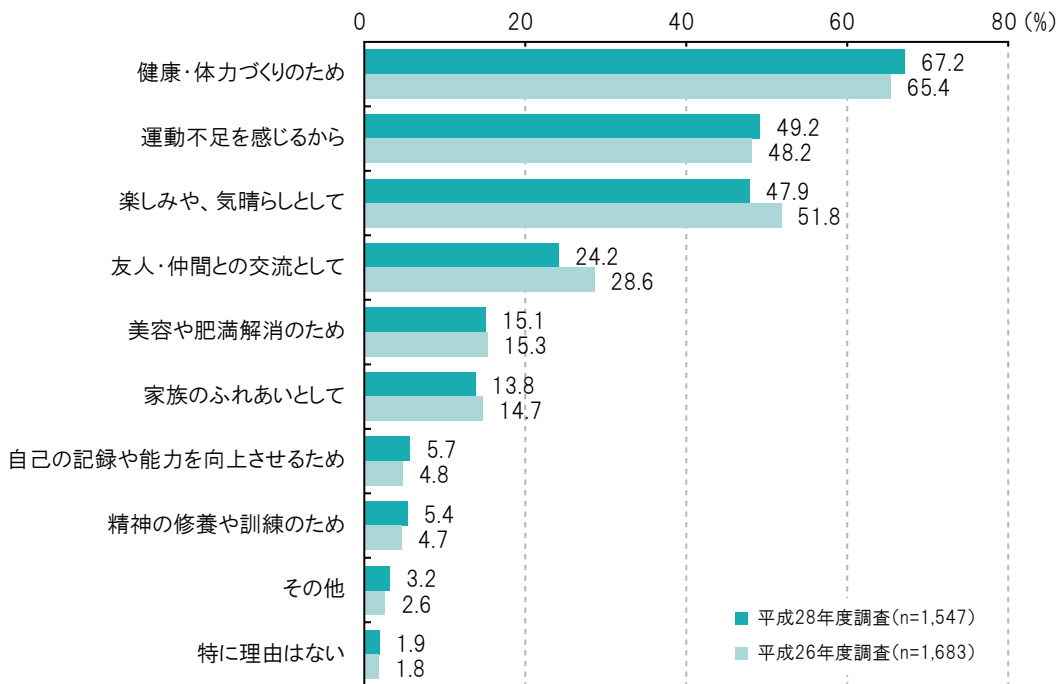


参考データ

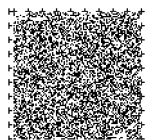
スポーツを実施しなかった理由（平成 26 年度と平成 28 年度の比較）



スポーツを実施した理由（平成 26 年度と平成 28 年度の比較）



図表出典：「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成 29 年1月、生活文化局）



具体的な取組

都民へのスポーツ情報支援・情報発信



スポーツTokyoインフォメーションの運営

東京都のスポーツ情報ポータルサイト「スポーツTokyoインフォメーション」やツイッター、フェイスブック等のSNSなど、都民が日頃から接することの多い媒体を通じ、日常生活において実施できる体操やストレッチ、気軽に参加できるスポーツイベント、様々な競技大会のみどころ等を発信し、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらいます。

▶ 関連ページ P.58, 83, 100, 119, 142



スポーツTokyoインフォメーション

TOKYO障スポ・ナビの運営

障害のある人がスポーツを行うきっかけとなることを目的に、都内の障害者スポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を掲載した障害者スポーツ専門ポータルサイト「TOKYO障スポ・ナビ」を運営します。

▶ 関連ページ P.58, 83, 99, 119

東京都ラグビー情報による情報発信

ラグビーワールドカップ 2019™ を契機により多くの方々にラグビーへの興味を持ってもらうことに加え、都民がより気軽にラグビーの魅力や情報に触れられるよう、都のウェブサイトにおいて、都内で開催されるラグビーの試合やイベント情報、ラグビーのルール紹介動画等のコンテンツを集約し、ツイッター、フェイスブック等のSNSなども活用して積極的に発信します。

▶ 関連ページ P.79, 83, 153

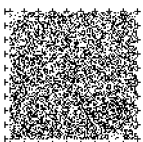


東京都ラグビー情報トップページ

都立スポーツ施設におけるスポーツ情報の発信

都立スポーツ施設へのWi-Fi等の通信環境の導入の状況等を踏まえ、スポーツ観戦者に対してスポーツイベント等の情報を効果的に発信し、スポーツを「みる」ことから「する」ことへつなげます。

▶ 関連ページ P.159





スポーツが健康に与える効果・効用の普及啓発



運動・スポーツによる健康増進の行動指針

最新の科学的根拠に基づき、スポーツ活動の種類や頻度、強度、活動量等に応じてどのような効果が得られるのかを分析し、健康維持・健康増進に必要なスポーツ活動量の基準を定め、都民への普及啓発に活用していきます。

健康的な生活習慣に関する普及啓発

日常生活において、負担感なく生活習慣病の予防や生活習慣の改善が行えるよう、健康づくりポータルサイト「とうきょう健康ステーション」等により適切な身体活動・運動等について普及啓発を行うほか、都内のウォーキングマップを集約したポータルサイトの充実を図るなど、都民の生涯を通じた健康づくりを推進していきます。

また、生活習慣病の予防に向けてスポーツを始めるきっかけになることが期待される特定健康診査・特定保健指導の実施率向上に努めます。

児童・生徒の体力の把握と活用



東京都統一体力カテストの実施

東京都の児童・生徒の体力・運動能力や生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。また、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立するため、「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力カテスト）」を引き続き実施し、その結果を活用していきます。

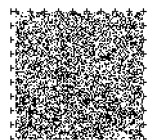
▼ スポーツTokyoインフォメーション

コラム
COLUMN

スポーツTokyoインフォメーションは、都民の皆さんに気軽にスポーツに親しんでもらうことを目的に、平成21（2009）年に開設した東京都のスポーツ情報ポータルサイトです。

東京都の最新のスポーツ施策の情報だけでなく、都民の皆さんが参加可能なスポーツイベントや、利用可能な公立スポーツ施設などを簡単に検索することができるほか、都内各地のおすすめウォーキングコースやランニングコースも掲載されています。また、スマートフォンでご覧になりたい方のための専用ページもご用意しています。

ホームページ <https://www.sports-tokyo.info/>



スポーツを始める機会の創出

現状と課題

東京都においては、平成 19（2007）年から開催されている「東京マラソン」をはじめ、東京の名所などを巡るウォーキングイベント「TOKYOウォーク」、体育の日記念事業である「スポーツ博覧会・東京」、チームでたすきをつなぐランニングイベント「味の素スタジアム6時間耐久ルーマラソン」等のスポーツイベントを開催し、子供から大人まで、性別や国籍を問わず、多くの方々に参加していただいています。

また、区市町村においても様々なスポーツ教室等が開催されており、企業等が主催するスポーツイベントも都内で数多く開催されています。特に、いつでもどこでも気軽にできるウォーキングやランニング関連のイベントは、近年の健康ブームとも相まって増加傾向にあります。

しかし、このことは、必ずしもスポーツを始めるきっかけづくりとして十分であるとは言えません。都民のスポーツ実施調査（平成 28 年度）によると、スポーツを実施しなかった理由として「機会がなかったから」との回答が 22.0%ありました（P.52 参照）。

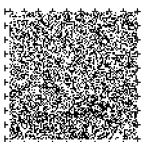
全ての人の事情にあわせて、個々にスポーツを実施してもらおう機会をつくることは困難ですが、都民のニーズに即したスポーツイベントの開催や、都民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツができる機会の提供を行っていくことが必要です。

今後の方向性

**都民がスポーツを始める機会を創出していくため、
スポーツイベントを開催するほか、
多様な主体の取組を支援していきます。**

＊

**東京都が主催するスポーツイベントが、
スポーツ実施の裾野拡大に効果的に寄与するよう、
都民のニーズを踏まえ、適宜見直します。**





具体的な取組

多様なスポーツイベントの開催



誰もが参加・体験できるスポーツイベントの開催

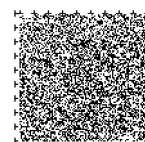
都民が気軽に参加、体験できるスポーツイベントを、都民のニーズを踏まえながら年間を通じて開催していきます。また、その取組の中で障害者スポーツやスポーツとして行うレクリエーション活動（以下「スポーツ・レクリエーション」という。）等、多様なスポーツを紹介することで認知度向上を図り、誰もが楽しむことができるスポーツを普及していきます。

▶ 関連ページ P.100, 108, 145

東京都が主催・共催する主なスポーツイベント

イベント概要		実績（2017年）		
名称	内容	時期	開催場所	参加人数（人）
 <p>東京マラソン</p> <p>©東京マラソン財団</p>	東京の名所などを巡る市民参加型マラソン大会（マラソン/10km）	2月	〈マラソン〉 東京都庁～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前・行幸通り	〈マラソン〉 35,378人 〈10km〉 446人
 <p>TOKYOウオーク</p>	東京の名所などを巡るウォーキング大会	6～12月	・港・品川エリア ・葛飾・足立エリア ・青梅エリア ・多摩川エリア ・三鷹・武蔵野・杉並エリア	20,069人※
 <p>スポーツ博覧会・東京</p>	スポーツ教室や障害者スポーツの体験コーナー、ゲストによるトークショー等	10月	・駒沢オリンピック公園総合運動場 ・井の頭恩賜公園西園	241,000人※
 <p>味の素スタジアム 6時間耐久リレーマラソン</p>	チームでタスキをつなぎながら走る、リレー形式のランニングイベント等	11月	・東京スタジアム	10,337人

※：延参加人数



ウォーキングイベントの開催

島しょを含む都内の名所をめぐる「TOKYOウオーク」をはじめ、大腸がん検診普及のための「Tokyo健康ウオーク」、水道水源等への理解を深める「玉川上水ウォーキング」など様々な切り口で、楽しみながら都内を歩くことのきっかけを創出していきます。

▶ 関連ページ P.145

参加・体験型障害者スポーツイベントの開催

障害のある人にもない人にも障害者スポーツを知ってもらい、理解と共感を深めてもらうとともに、障害者スポーツの楽しさや効用を知ってもらい、スポーツを始めってもらうきっかけを提供するため、障害者スポーツイベント「チャレスポ！TOKYO」を開催します。

▶ 関連ページ P.99, 103



チャレスポ！TOKYO

東京 2020 大会に関連したイベントの開催

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「東京 2020 大会組織委員会」という。）と連携し、カウントダウンイベントの開催や全国を巡回するフラッグツアー等を通じて、大会気運の醸成を図るとともに、都民のスポーツへの関心を高めていきます。

ラグビーワールドカップ 2019™ に関連したイベントの開催

（公財）ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会や他の開催都市等と連携し、カウントダウンイベントやラグビーファンゾーン等の開催を通じて、大会気運の醸成を図るとともに、都民のスポーツへの関心を高めていきます。

▶ 関連ページ P.153

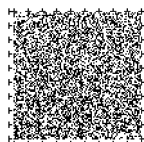
東京都が主催するスポーツイベントの見直し

東京都が主催するスポーツイベントについては、スポーツを実施する機会を提供することにより、スポーツを実施する人の裾野拡大に効果的に寄与するものとなるよう、女性や働き盛り世代等、スポーツをあまり実施していない層への訴求効果を高めるとともに、地域団体や企業等での参加を促進することで、地域や職場に戻って活動を展開できるよう、適宜見直します。

都立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

都立スポーツ施設の指定管理者が、施設の有効活用の観点から実施する様々なスポーツ振興のためのイベントや講習会等について、内容の多様化等を図るとともに、東京都の施策との連動性を高める仕組みを構築することにより、スポーツを実施する人の裾野拡大に一層効果的なものへとしていきます。

▶ 関連ページ P.139





区市町村等が実施するスポーツイベント等への支援



東京 2020 大会の成功に向けた区市町村支援事業

東京 2020 大会の成功に向け、都内全域で気運醸成を図るとともに、大会を契機とした様々な事業を大会後のレガシーとして地域に根付かせるため、区市町村が東京 2020 大会の気運醸成のために主体的に実施するスポーツ振興や地域の活性化につながる事業に対して助成を行います。

▶ 関連ページ P.103

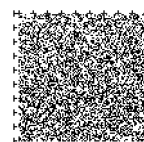
東京 2020 参画プログラムの活用

区市町村が実施するスポーツイベント等の開催にあたっては、東京 2020 大会に向けた気運醸成を図るために、東京 2020 大会組織委員会が実施している「東京 2020 参画プログラム」の積極的な活用を図り、大会との相乗効果により都民のスポーツへの関心を高めます。

スポーツイベントの情報発信

東京都のスポーツ情報ポータルサイト「スポーツTokyoインフォメーション」や「TOKYO障スポ・ナビ」の運営を通じて、東京都が主催するスポーツイベントだけでなく、区市町村が実施するスポーツイベントについても広く情報を発信していきます。

▶ 関連ページ P.53, 83, 99, 100, 119, 142



スポーツを身近でできる場の確保

現状と課題

東京都には、東京体育館や東京スタジアムをはじめとした都立大規模スポーツ施設が、平成30（2018）年4月時点で10か所あります。これらの施設は、障害のある人専用のスポーツ施設である2か所の障害者スポーツセンターを除き、主に大規模スポーツ大会等の会場として活用されるとともに、都民のスポーツ振興に向けた各種事業が行われています。都立スポーツ施設の稼働率は大変高く、施設利用にあたっては抽選となることも少なくありません。

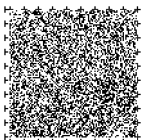
東京都では、東京2020大会の競技会場として、都内6か所に新たな施設（東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、夢の島公園アーチェリー場）を整備していますが、それを加えたとしても、施設を利用したいという全てのニーズに答えていくことには限界があります。都民が身近な場所でスポーツを実施できる場を確保していくためには、都立スポーツ施設を適切に管理運営し、可能な限り利用促進を図るとともに、区市町村のスポーツ施設についても有効活用が図られるよう、区市町村と連携していく必要があります。加えて企業や学校等が所有しているスポーツ施設を有効活用していくことも必要です。

今後の方向性

**都民が身近な場所でスポーツ活動が行えるよう、
既存の都立スポーツ施設や東京2020大会の競技施設を適切に
管理運営するとともに、区市町村のスポーツ施設整備を支援していきます。**

＊

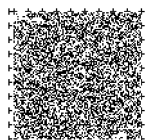
**新たなスポーツ活動の場を確保していくため、
既存のスポーツ資源の有効活用について検討を進めます。**



参考データ

主な都立スポーツ施設

施設名		主な施設
東京体育館 (渋谷区)		メイン・サブアリーナ、屋内プール (50m,25m)、陸上競技場 (200m)、トレーニングルーム
駒沢オリンピック公園 総合運動場 (世田谷区)		陸上競技場 (400m)、体育館、補助競技場、弓道場、(屋内、第一、第二) 球技場、(硬式、軟式) 野球場、テニスコート、トレーニングルーム
東京武道館 (足立区)		(大、第一、第二) 武道場、弓道場、トレーニングルーム
東京辰巳国際水泳場 (江東区)		メインプール (50m)、サブプール (50m)、ダイビングプール
有明テニスの森公園 テニス施設 (江東区)		テニスコート (48 面)、有明コロシアム (1 面)
若洲海浜公園 ヨット訓練所 (江東区)		マリーナ (ポートヤード、浮桟橋、監視塔)
東京都障害者総合 スポーツセンター (北区)		体育館、トレーニング室、屋内プール、卓球室・サウンドテーブルテニス室、陸上競技場、アーチェリー場、テニスコート、宿泊施設
東京都多摩障害者 スポーツセンター (国立市)		体育館、トレーニング室、屋内プール、卓球室・サウンドテーブルテニス室、宿泊施設
武蔵野の森総合 スポーツプラザ (調布市)		メインアリーナ、サブアリーナ、屋内プール (50m)、トレーニングルーム
東京スタジアム (調布市)		味の素スタジアム、アミノバイタルフィールド、西競技場

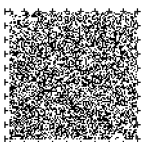
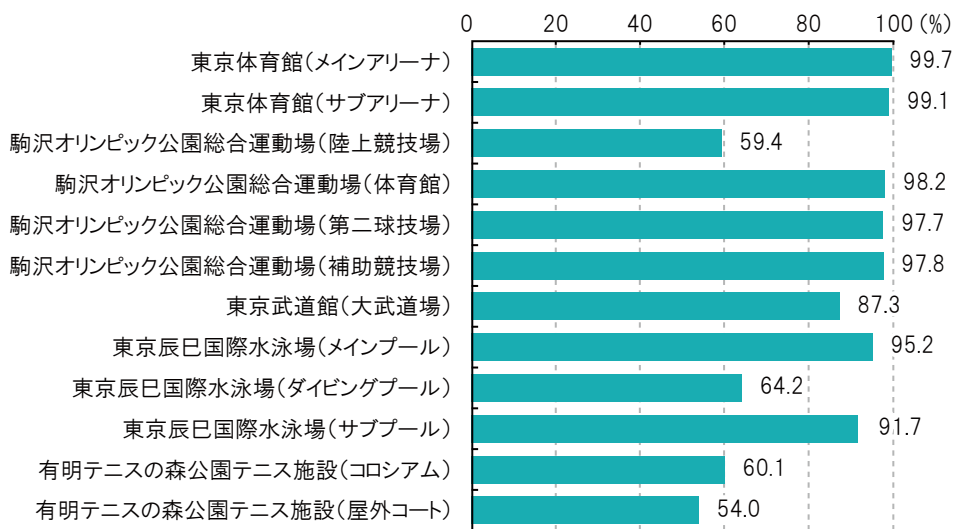


参考データ

東京 2020 大会の競技会場として新たに整備する施設（新規恒久施設）

施設名	主な施設
東京アクアティクスセンター (江東区) <small>※平成 29 年 11 月時点の大会時イメージ図</small>	メインプール (50m)、サブプール (50m)、 ダイビングプール
海の森水上競技場 (江東区) <small>※平成 29 年 12 月時点の大会時イメージ図</small>	競技コース (2000m)
有明アリーナ (江東区) <small>※平成 27 年 10 月時点のイメージ図</small>	メインアリーナ、サブアリーナ
カヌー・スラロームセンター (江戸川区) <small>※平成 28 年5月時点の大会時イメージ図</small>	競技施設
大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場 (品川区、大田区) <small>※平成 28 年6月時点の大会後イメージ図</small>	メインピッチ、サブピッチ
夢の島公園アーチェリー場 (江東区) <small>※平成 29 年 11 月時点の大会後イメージ図</small>	多目的広場

主な都立スポーツ施設の稼働率（団体利用のみ）（平成 28 年度実績）





するスポーツ

具体的な取組

都立スポーツ施設の管理運営



既存の都立スポーツ施設の管理運営

既存の都立スポーツ施設について、指定管理者制度による民間事業者の活用等により、利用者の満足度を高めるサービスを提供していきます。

▶ 関連ページ P.103, 139, 159

都立スポーツ施設の利用機会の拡大

既存の都立スポーツ施設のうち個人利用を想定している施設については、これまでの利用実績を踏まえ開館時間の延長を行ってきました。今後も利用者ニーズ等を踏まえながら、更なる利用機会の拡大について指定管理者との連携を促進していきます。

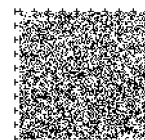
主な個人利用施設の利用時間

施設名	利用時間
東京体育館 (トレーニングルーム・屋内プール・陸上競技場)	平日 9:00～23:00 (陸上競技場は最終入場時間 22:00) 土曜 9:00～22:00 (陸上競技場は最終入場時間 21:00) 日祝 9:00～21:00 (陸上競技場は最終入場時間 20:00)
駒沢オリンピック公園総合運動場 (トレーニングルーム・弓道場)	(トレーニングルーム) 平日 9:00～21:30 (最終入場時間 20:30) 土日・祝日 7:30～21:00 (最終入場時間 20:00) (弓道場) 平日・土日・祝日 9:00～21:00 (最終入場時間 20:30)
東京辰巳国際水泳場 (メインプール・サブプール・ダイビングプール)	平日・土 9:00～22:30 (開場時間は 8:45、最終入場時間 21:00) 日祝 9:00～21:30 (開場時間は 8:45、最終入場時間 20:00)
有明テニスの森公園テニス施設 (テニスコート)	平日・土日・祝日 9:00～21:00 * 早朝テニス 7:00～9:00 (4月～10月)

新規恒久施設の後利用

東京 2020 大会の競技会場として東京都が新たに整備する施設（以下「新規恒久施設」という。）については、アスリートファーストの理念の下、最高の競技環境を実現するとともに、バリアフリー化にも配慮し、観客にとっても快適に観戦できる施設としていきます。また、大会後も民間事業者等からの提案を生かしながら、都民・国民の貴重な財産として将来にわたり有効に活用していきます。

▶ 関連ページ P.137, 139



都立スポーツ施設の大規模改修

既存の都立スポーツ施設について、老朽化への対応、バリアフリー化や利用者の利便性の向上等を図るため、計画的に改築・改修を進めます。

▶ 関連ページ P.104, 124, 160

大規模改修の年次計画

施設名	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
東京体育館	実施設計	改修工事		
東京武道館	改修工事 (電気)			
東京辰巳国際水泳場	実施設計	改修工事		
有明テニスの森公園テニス施設		改修工事		
若洲海浜公園ヨット訓練所	改修整備 計画	基本設計	実施設計	改修工事
東京都障害者総合スポーツセンター	改修工事			
東京都多摩障害者スポーツセンター	実施設計	改修工事		
武蔵野の森総合スポーツプラザ		実施設計	改修工事	
東京スタジアム	実施設計	改修工事	改修工事	

アクセシビリティ・ワークショップの開催

東京 2020 大会の会場のうち都立恒設競技施設の整備にあたっては、障害の有無に関わらず全ての人々にとって利用しやすい施設となるよう、アクセシビリティの確保に向けて、設計段階で、障害のある人や学識経験者等から意見を聴取するアクセシビリティ・ワークショップを設置し、聴取した意見や要望は、可能な限り、施設整備に反映させていきます。

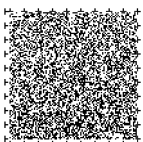
▶ 関連ページ P.123

東京スタジアム内室内施設の有効活用

東京都多摩障害者スポーツセンターの大規模改修工事に伴う休館の代替施設とするため、東京スタジアム内のオリンピック・パラリンピック準備局が所管する室内施設を活用します。東京都多摩障害者スポーツセンターの工事終了後の活用方法については、今後検討を進めていきます。

東京辰巳国際水泳場の後利用

東京辰巳国際水泳場の後利用については、近接地に東京アクアティクスセンターが整備されることを踏まえ、東京アクアティクスセンターとは異なる機能を有するスポーツ施設として検討していきます。



身近な場所でのスポーツ環境の整備



区市町村スポーツ施設整備費補助

平成 32（2020）年に向け、スポーツ環境の充実・拡大を図るため、区市町村の行う下記のスポーツ施設整備の取組について支援を行います。

- ①スポーツをする面積の拡大を伴う区市町村の体育施設の新築・改築・改修等
- ②スポーツをする時間等の拡大を伴う区市町村の体育施設の新築・改築・改修等
- ③誰もが利用しやすい環境を整備する区市町村の体育施設のバリアフリー工事
- ④区市町村立公園への運動器具整備（モデル事業）
- ⑤東京 2020 大会の事前キャンプ誘致・受入対応のための区市町村の体育施設の新築・改築・改修等
- ⑥東京 2020 大会練習会場のための区市町村の体育施設の新築・改築・改修等
- ⑦ラグビーワールドカップ 2019™ 事前チームキャンプ地・公認チームキャンプ地のための区市町村の体育施設の新築・改築・改修等

▶ 関連ページ P.105, 116, 124

都内公立学校体育施設の開放

学校教育活動に支障のない範囲で、都立学校の体育施設を広く開放し、都民のスポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを促進していきます。

なお、公立小・中学校の開放については、設置者である区市町村が、各教育委員会の判断のもと、実施していきます。

都立学校活用促進モデル事業

障害のある人や障害者スポーツ競技団体等が身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設等を、学校教育活動に支障のない範囲で平日夜間・土日祝日の時間帯について活用を促進していきます。また、都立特別支援学校を障害者スポーツの拠点の一つと位置付け、児童・生徒、地域住民等、障害の有無によらず参加できるスポーツやレクリエーションの体験教室を開催し、継続的なスポーツ活動のきっかけづくりをしていきます。

▶ 関連ページ P.105

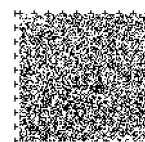
都立公園のスポーツ施設における利用時間及び利用日の拡大

都立公園のスポーツ施設において、都民の利用機会の向上を図るため、年末利用日を拡大するとともに、通年の夜間利用の実施施設を拡大します。

数値
目標

▶ 都立公園のスポーツ施設における利用時間及び利用日の拡大

- 夜間利用の通年化：17 公園 28 施設（平成 30 年度）
- 年末における利用日の拡大：31 公園 56 施設（平成 30 年度）



TOKYOスポーツ施設サポーターズ

スポーツ施設を所有している大学や企業等と、TOKYOスポーツ施設サポーターズの協定を締結し、都民が利用できるスポーツ施設の拡大を図ります。

地域開拓推進事業

(公社)東京都障害者スポーツ協会が、区市町村等に対し、障害者スポーツ事業への取組状況に応じた相談・実施の支援、障がい者スポーツ指導員等の派遣及びスポーツ用具の貸与を行うことで、その取組が継続・充実・定着するよう支援します。

▶ 関連ページ P.105

障害者のスポーツ施設利用促進マニュアルの活用

障害のある人が身近な地域のスポーツ施設などをより安全で快適に利用できるよう、スポーツ施設を利用する際に配慮すべきポイントや、各施設で実際に行われている工夫についてまとめたマニュアルを配布及び活用し、障害のある人のみならず、誰もが安全に利用できる施設運営を推進します。

▶ 関連ページ P.105



障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル

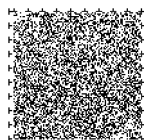
ウォーキング・サイクリング環境の整備

河川沿いの通路、隅田川テラスで、ウォーキング等への利用を促進する取組を進めるとともに、海上公園内にサイクリング道路を整備し、仕事帰りや休日にスポーツを楽しむことができる環境を整備していきます。

数値目標

▶ 海上公園内サイクリングルート整備

- 7.5km (平成 31 年度)
- 11.5km (平成 36 年度)



成長段階にある児童・生徒の体力向上

現状と課題

体力は、人間のあらゆる活動の源であり、物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実に深く関わっています。そして、人間の健全な発達・成長を支え、健康で充実した生活を送る上で極めて重要なものです。

生涯にわたって健康でいきいきと生活していくためには、乳幼児期から青年期に至るまでの間に、基礎体力を十分に高めていくことが特に重要となります。しかし、社会が便利になるにつれ、人々の生活様式にも変化が生じ、大人だけでなく子供の体力も長期にわたり低下傾向にありました。

小学生や中学生・高校生に対しては、一日の多くを過ごす学校を中心に、地域や関係団体と連携を図りながら、体力の向上を図っていくことが重要となります。そこで、東京都教育委員会では、平成 22（2010）年度から「総合的な子供の基礎体力向上方策」を展開してきました。各学校の取組が功を奏し、東京都の児童・生徒の体力は全体的に向上傾向を示すようになってきました。

その一方で、スポーツが嫌いと思う児童・生徒は少なからず存在しており、学年が上がるにつれてその割合は増加しています。また、「小学校から中学校への進学に伴って、運動をする生徒と運動をしない生徒とが二極化する傾向」*が見られるという報告もあります。

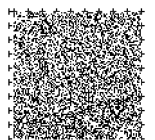
今後は、子供の体力向上に向けた取組を一層推進していくとともに、スポーツ好きの子供を増やし、自発的にスポーツを実施するような取組を推進していくことも必要です。

今後の方向性

**児童・生徒の運動量が十分に確保されるよう、
様々な取組を進めるとともに、運動が苦手だったり、
好きでない児童・生徒に対する優れた実践等を広く普及していきます。**

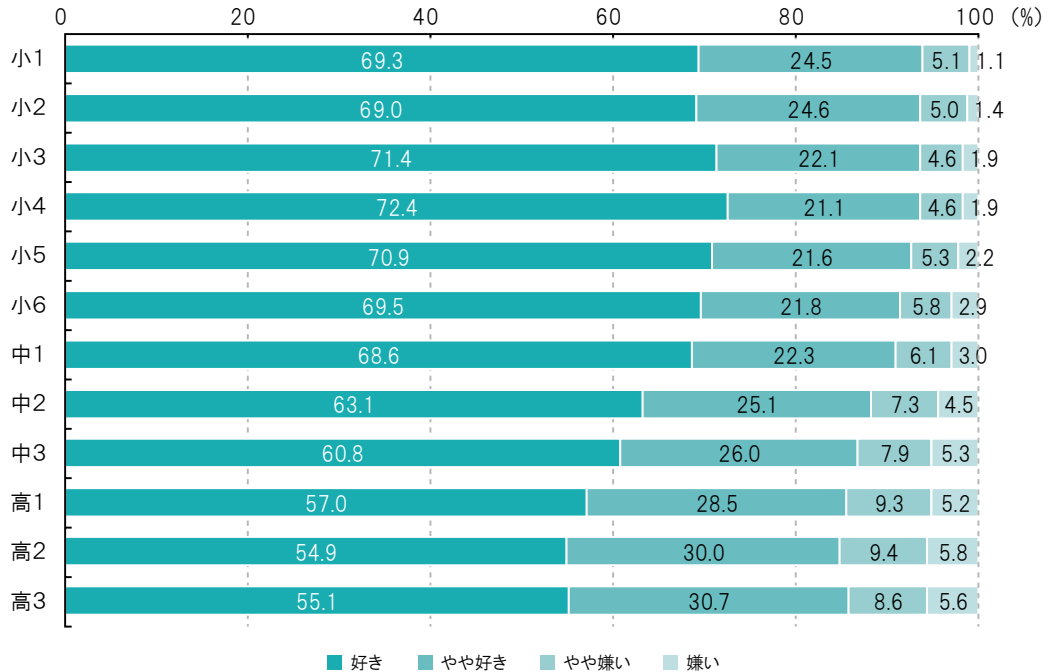
**運動部活動を振興していくため、
顧問教諭の指導力強化や外部の指導員等を活用した取組を進めます。**

* 「平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」（平成 30 年2月、スポーツ庁）より引用

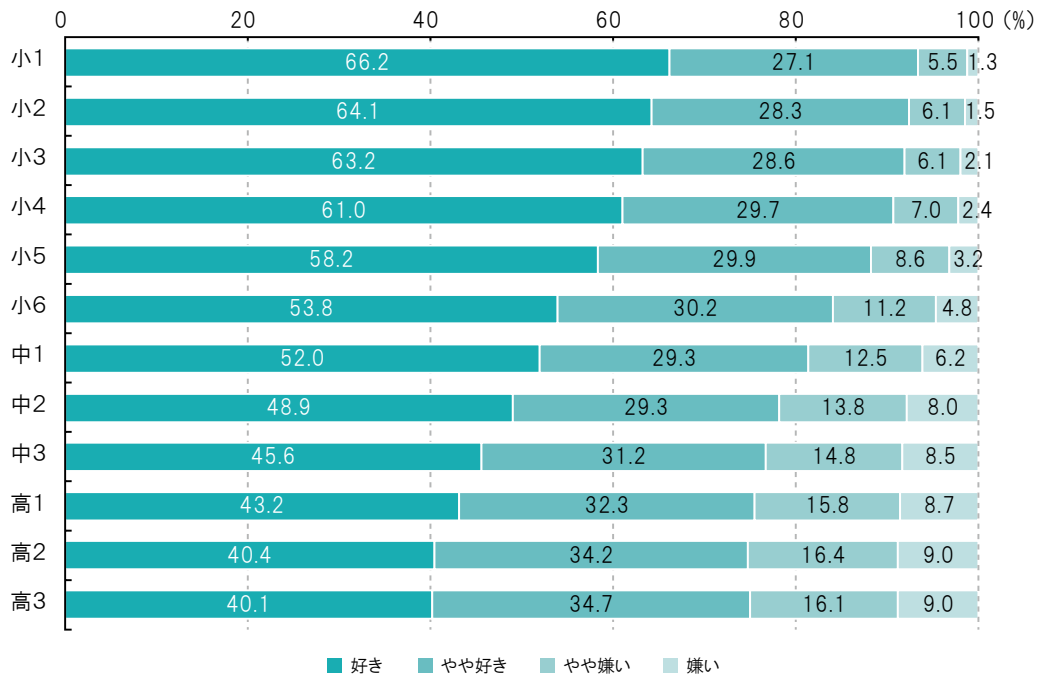


参考データ

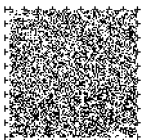
スポーツが好き又は嫌いな児童・生徒の状況【男子】



スポーツが好き又は嫌いな児童・生徒の状況【女子】



図表出典：
「アクティブプラン to 2020」（平成 28 年1月、東京都教育委員会）





するスポーツ

具体的な取組

学校における運動量の十分な確保と優れた実践の普及



児童・生徒の運動時間の十分な確保

児童・生徒の体力向上のため、体育授業における運動時間の確保をはじめ、運動部活動への積極的な参加や休み時間等を活用した身体活動量の維持・増強を図ります。

コーディネーショントレーニングの普及

運動生理学や脳科学の研究から考案され、児童・生徒の体力向上を図ることが期待できるコーディネーショントレーニングに取り組む地域拠点校を定め、実践するとともに、その内容を地域に発信していきます。

小学校における健康教育の推進「アクティブライフ研究実践校」の指定

健康教育を中心とした体力向上・健康づくりを学校・家庭・地域を挙げて推進していくため、基本的な生活習慣の定着・改善に向けた取組や、栄養・運動・休養の健康三原則に係る保健指導などの具体的な取組を公立小学校 20 校において実践研究します。また、実践報告会や研究報告書の作成・配布等により、優れた取組や成果を発信することを通して、全ての公立小学校の健康教育の充実を図ります。

中学校における「アクティブスクール」の展開

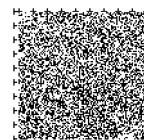
全ての公立中学校を「アクティブスクール」として位置付け、自校の目標や目標値、取組内容を定めた「体力向上推進計画」を作成し、平成 28（2016）年度から平成 32（2020）年度までの5年間を実施期間として、体力向上に向けた取組を充実させていきます。

中学校における体力向上のモデル校「スーパーアクティブスクール」の指定

中学生の体力向上をリードする公立中学校 62 校を指定し、体力を向上させるための指導法の工夫や運動部活動加入の推進、複数運動部活動への参加によるバランスのとれた体力向上の取組等を推進します。また、運動が苦手だったり、好きでない生徒を対象とした活動や部活動に所属していない生徒等を対象とした体育活動等についても、具体的な取組を考案し、積極的に進めていきます。

中学生「東京駅伝」大会の実施

平成 21（2009）年度から開催している中学生「東京駅伝」大会が、より一層中学校全体の体力向上ムーブメントの原動力となるように、また、中学生が自らの身体に興味・関心を持ち、積極的にスポーツの習慣づくりに取り組むことができるように、改めてその重要性について認識を深め、東京都の中学校全体の体力向上の象徴的な取組として展開していきます。



高等学校における体力向上のモデル校「パワーアップハイスクール」の実施

高校生の体力向上をリードする都立高等学校 36 校を指定し、地域と連携した体力向上の取組や日常的な運動習慣の定着を図ります。

都立特別支援学校におけるスポーツ教育推進

東京 2020 大会の開催に向け、都立特別支援学校を「スポーツ教育推進校」に指定し、障害者スポーツの振興を図ります。

▶ 関連ページ P.103

学校体育実技指導者講習会の開催

スポーツ庁が主催する「体育・保健体育指導力向上研修」を活用するなど、スポーツが苦手な児童・生徒や嫌いな児童・生徒に対する指導の工夫や、運動の実施時間が少ない児童・生徒に対する取組など、教員の指導力の向上を図り、体育授業等の充実に努めていきます。

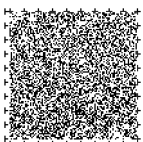
武道・ダンスの技術力、指導力の向上

保健体育科教諭の「武道」「ダンス」の技術力や指導力の向上を図るため、指導者講習会等を計画的に実施します。

校庭等の芝生化の推進

子供の運動量や屋外で活発に過ごす時間の増加が期待される校庭等の芝生化を推進するため、公立小中学校及び私立学校等において、校庭等の芝生化に取り組む場合、一定の要件の下、補助金を交付します。

▶ 関連ページ P.108





運動部活動の振興



スポーツ特別強化校の指定

全国大会や関東大会への出場や都大会での上位進出を目指す都立高校を指定した「スポーツ特別強化校」の取組を更に充実させ、競技力向上を一層推進します。

高校生元気アップスポーツ交流事業

東京都と地方都市との高校生が、スポーツ等を通して交流することにより、平成32(2020)年のオリンピック競技大会への気運を互いに高め合うとともに、都立高校生が地方都市の地場産業、伝統芸能・文化、地域貢献等を体験することにより、我が国の将来を担うための資質・能力を図ること等を目指して、スポーツ交流による地方創生を推進します。

部活動指導の民間委託事業の実施

民間事業者を活用した専門的指導者の学校派遣を試行的に実施し、運動部活動の技術指導の充実と顧問教諭の業務縮減を図ります。

部活動指導員の導入

顧問教諭に代わって、専門的な技術指導や休日の大会引率、審判等を行うことができる学校教育法施行規則の改正により規定された部活動指導員を、平成30(2018)年度より、中学校、高等学校に導入し、指導の充実と教員の部活動指導時間の軽減を図っていきます。

運動部活動指導者の技術力、指導力の向上

公立中学校・高等学校の教員を対象に実技講習会を実施し、顧問教諭の役割や望ましい指導法についての正しい理解、及び技術指導力の向上を図ります。また、運動部活動中の事故に対する基礎的な知識や対応策等を身に付けさせ、運動部活動指導者としての資質向上を図ります。

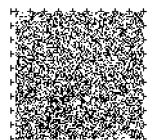
体育連盟と連携した運動部活動指導者の育成

東京都中学校体育連盟及び東京都高等学校体育連盟との連携により、顧問教諭や外部指導員の指導力向上をねらいとした講習会を開催します。

都立特別支援学校における部活動振興

都立特別支援学校中学部・高等部の課外活動へ、専門的な知識や技術等を有する人材を活用する外部指導員制度を導入します。

▶ 関連ページ P.103



競技力向上の取組を通じたスポーツ実施の推進

現状と課題

スポーツにおいて競技技術を向上させたり、記録を伸ばしていくことは、単に競争相手に勝利するという結果をもたらすだけではありません。その過程において、他者の教えを受け、自ら創意工夫するほか、多くの練習や様々な努力が行われます。こうしたことは、人を大きく成長させ、貴重な経験・記憶として残ります。更に、自分が上達・成長していくことを実感することは、喜びや楽しみとなり、スポーツを継続するモチベーションになります。

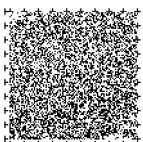
東京都では、昭和 45（1970）年から実施している国体候補選手強化事業をはじめ、ジュニア選手の発掘・育成や競技団体等を通じた競技力向上にも取り組み、その成果は国民体育大会における上位の成績として表れています。また、近年はオリンピック・パラリンピックを目指す選手の発掘・育成・強化にも取り組んでいます。選手の競技力向上への取組は、対象となる選手だけに意義があるわけではありません。地元の選手が様々な大会で活躍する姿は、みる人の感動や興奮を喚起し、スポーツを始めるきっかけや、継続する目標にもなります。引き続き競技力向上の取組を推進し、スポーツを実施する人の裾野を拡大していくことにもつながっていく必要があります。

今後の方向性

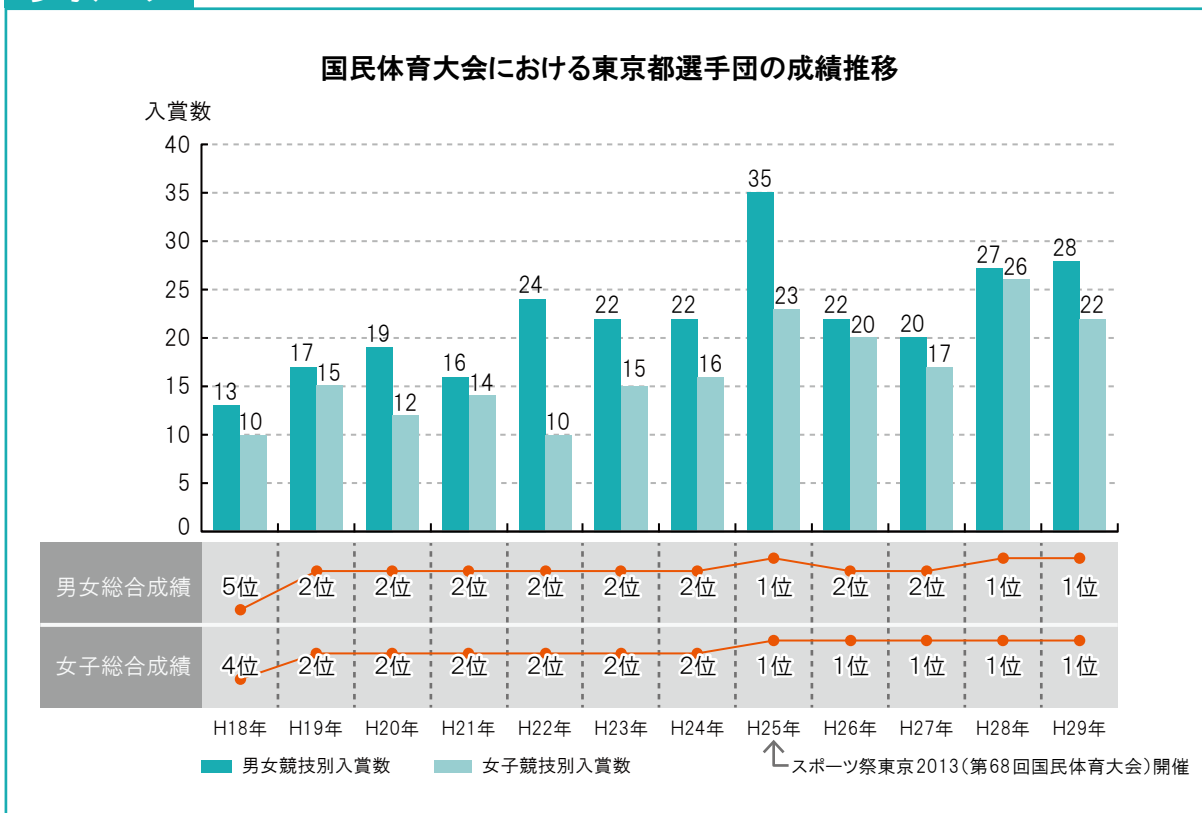
**将来有望な選手を発掘・育成・強化するとともに、
東京 2020 大会をはじめとした競技会等で十分な活躍ができるよう、
強化練習会の実施などをサポートしていきます。**

＊

**選手が、日頃から取り組んできた練習等の成果を披露し、
スポーツに取り組むモチベーションを高めるため、
都大会の開催など機会の確保を図ります。**



参考データ



具体的な取組

才能ある選手の発掘



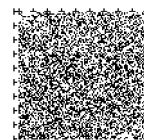
ジュニア育成地域推進事業

将来オリンピックをはじめとした国際舞台での活躍を目指す若年層の選手（以下「ジュニア選手」という。）の裾野を広げ、競技力の底上げを図るため、地域における小・中・高校生等を対象とし、スポーツ教室、大会、強化練習等を実施します。

▶ 関連ページ P.108

ジュニア特別強化事業

有望なジュニア選手に対して、各競技団体が主体となって強化練習会や対外試合、強化合宿等を実施し、競技力向上が図られるよう支援を行います。



トップアスリート発掘・育成事業

優れた運動能力を有する中学2年生を募集・選考し、育成プログラムを経て7つの競技（ボート・ボクシング・レスリング・ウエイトリフティング・自転車・カヌー・アーチェリー）のうちから適性のある競技でトップアスリートとして活躍できるよう支援します。

また、発掘・育成の成果を踏まえ、支援の対象となる競技種目等の見直しについて検討を行います。

▶ 関連ページ P.156

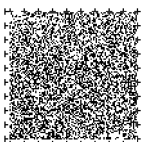


トップアスリート発掘・育成事業の様子
（左上）ボクシング（右上）自転車（左下）カヌー（スプリント）（右下）レスリング

パラリンピック選手発掘プログラム

パラリンピック等の国際舞台で活躍する東京ゆかりの選手を輩出するため、体験プログラムや実践プログラムを実施し、アスリート候補者の発掘を行います。

▶ 関連ページ P.156





東京育ちのアスリートの競技力向上



東京アスリート認定制度

オリンピック・パラリンピック等を目指す東京の選手を、東京都の強化選手として認定し、ウェブサイト等で認定選手の競技活動等を紹介することで、都民が地元選手を応援する気運を盛り上げていきます。

▶ 関連ページ P.156

日本代表選考会出場選手強化事業

「東京アスリート認定制度」における認定選手を中心に、強化合宿への参加経費や海外で競技経験を積むための渡航費などに対する支援を行います。

▶ 関連ページ P.156

国体候補選手強化事業・国体選手健康調査チェック等事業

国民体育大会の東京都代表候補選手に対する強化練習等の支援を行うとともに、国民体育大会出場候補選手の健康調査を実施します。

グローバル指導者育成事業

トップアスリートの育成実績がある国際的な指導者を、都競技団体が実施する強化練習等に招へいし、指導者の能力開発を図ります。

▶ 関連ページ P.156

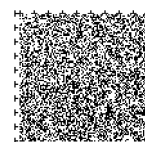
都民体育大会の開催

広く都民の間にスポーツを普及し、都民の健康増進と体力向上を図り、都民生活を明るく豊かにするとともに、地域スポーツの振興と友好親善を目的として、都民体育大会を開催します。

国民体育大会への選手・役員の派遣等

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、あわせて、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民の生活を明るくしようとするものです。

国民体育大会へ選手・役員を派遣するとともに、本大会の予選として、東京都予選会を開催するほか、関東ブロック大会を各都県持ち回りで開催します。



東京都障害者スポーツ大会の開催

障害者スポーツを通じて、自らの体力の維持・増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、障害のある人に対する都民の理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に東京都障害者スポーツ大会を開催します。また、本大会は全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねます。

全国障害者スポーツ大会開催競技の強化練習会

全国障害者スポーツ大会における東京都選手の活躍のため、強化練習会を開催し、選手の競技力を強化します。

全国障害者スポーツ大会への選手・役員の派遣等

障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加促進に寄与することを目的に開催されている全国障害者スポーツ大会に、選手・役員を派遣します。

障害者スポーツ競技団体の活動支援

東京における障害者スポーツ競技団体の体制整備と選手の競技力向上を目的として、団体が実施する練習会や強化合宿などに対する補助を行います。

▶ 関連ページ P.130

障害者スポーツ選手育成事業

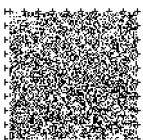
今後短期間で成長が見込まれる選手を対象に、共通プログラムや競技別プログラムを実施し、競技団体の強化活動へ速やかにつながるよう育成を行います。

▶ 関連ページ P.156

東京ゆかりパラリンピック出場候補者強化事業

「東京アスリート認定制度」で認定された選手に対して、競技活動の費用負担軽減のための支援を行います。

▶ 関連ページ P.156



アスリートの競技力向上のサポート

継続支援

テクニカルサポート事業

大学との連携による選手へのスポーツ医・科学に基づいたサポート事業を実施し、当該データの測定を基に、選手へのフィードバックや助言を行います。

また、スポーツドクター等の人材データを集積し、要望に応じて情報提供するとともに強化練習会等に派遣して選手のパフォーマンス向上を図ります。

更に、指導者が自身の経験や熱意だけでなく、スポーツ医・科学に立脚した客観的データを用いたコーチングができるよう、指導者の資質向上のための指導者講習会等を実施します。



テクニカルサポート事業
(大学連携事業) 筋力・持久力等測定

▶ 関連ページ P.157

女性アスリートに対する競技力向上支援

女性アスリート特有の身体上の問題に関して、アスリート及び指導者等に正しい知識の普及や理解促進を行うことで、アスリート自身の不安等を解消し、より効率の良いトレーニングを行う環境を整えます。

▶ 関連ページ P.115, 157

アスリートのスポーツキャリア形成支援

継続支援

アスリート・キャリアサポート事業

選手が生活基盤を確立し競技活動に専念できるよう、(公財)日本オリンピック委員会と連携し、アスリートの就職支援を実施します。アスリートや指導者等に対しては、就職への意識の醸成を図るとともに、就職活動に役立つ情報提供を実施し、企業に対しては、アスリートの雇用を促進するための説明会等を実施します。

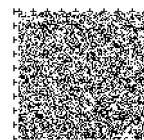
また、競技力向上に向けたアスリートのキャリア形成については、スポーツ選手としてのキャリアと引退後を含む人生設計全体を考える「デュアルキャリア」という考えのもと、アスリートのキャリア形成の支援を推進します。



アスリート・キャリアサポート事業

アスリートが生涯を通じて活躍できる場の提供

アスリートが競技生活を引退した後も、その知識や経験を生かして活躍することができ、次世代のアスリートの発掘や育成につなげることができるよう、学校や地域スポーツクラブ等と連携しながら、元アスリートが活躍できる場の提供を検討します。



スポーツをみることの魅力発信

現状と課題

アスリートが練習の成果を発揮し、高いレベルで競い合う姿は、多くの人々に感動を与えます。また、応援しているチームや選手の活躍をみることで満足感・充足感を得られることもあります。更に、スポーツ観戦を通じてトップアスリートに対する尊敬や憧れを抱き、自らスポーツに親しむきっかけになることも期待できます。このようにスポーツはみることを通じて、人々に様々な効果・効用を与えています。

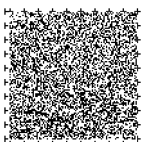
実際に、スポーツを観戦するだけで健康を促進させることができる可能性があるという研究結果も報告されています。国際ジャーナル「フロンティアズ・イン・オートノミック・ニューロサイエンス」に掲載された論文によれば、「他人が運動しているのをみるだけで、自分が運動しているかのように、筋交感神経活動が活発になり、心拍数、呼吸数、皮膚血流量が増加する」ことが示されています*。

現在は、地上波のテレビ中継だけでなく、衛星放送やインターネット配信等の様々な媒体で競技大会の放送が行われ、いつでも、どこでもスポーツ観戦をすることができます。都民のスポーツ実施調査（平成 28 年度）によると、この1年間にテレビ・ラジオ、インターネット配信等でスポーツを観戦したと回答した都民の割合は、92.3%に上っています。

1年間に一度でも観戦したことのあるスポーツについては、野球、テニス、サッカー（フットサルを含む）を60%以上の都民が観戦したと回答しており、水泳競技や卓球といった第31回オリンピック競技大会（2016 / リオデジャネイロ）及びリオ 2016 パラリンピック競技大会で日本人が活躍した競技についても50%を超える都民が観戦したと回答しています。しかし、平成 31（2019）年に日本でワールドカップが開催されるラグビーについては、テレビ放映の機会が比較的あるにも関わらず、観戦したことのある都民は30.9%に止まっており、また、オリンピック・パラリンピックの競技であっても観戦した人の割合が高くないものが多くあります。そのような競技については、試合を観戦する以前に、競技そのものに興味・関心がなく、また興味・関心を持つようにも、そのきっかけすらないのだと思われます。都民に様々な競技をみて楽しんでもらうためには、こうした馴染みのない競技についても、そのみどころやルールを分かりやすく発信し、興味・関心を喚起していく必要があります。

今後の方向性

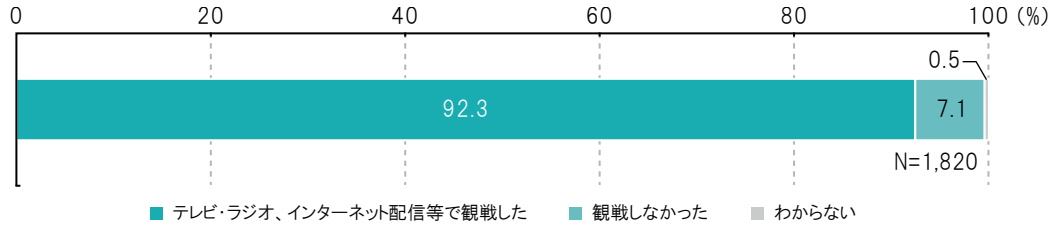
**都民に様々なスポーツを観戦してもらうため、
競技のみどころやルールを紹介する等、
多様な手法によりスポーツをみることの魅力を発信していきます。**



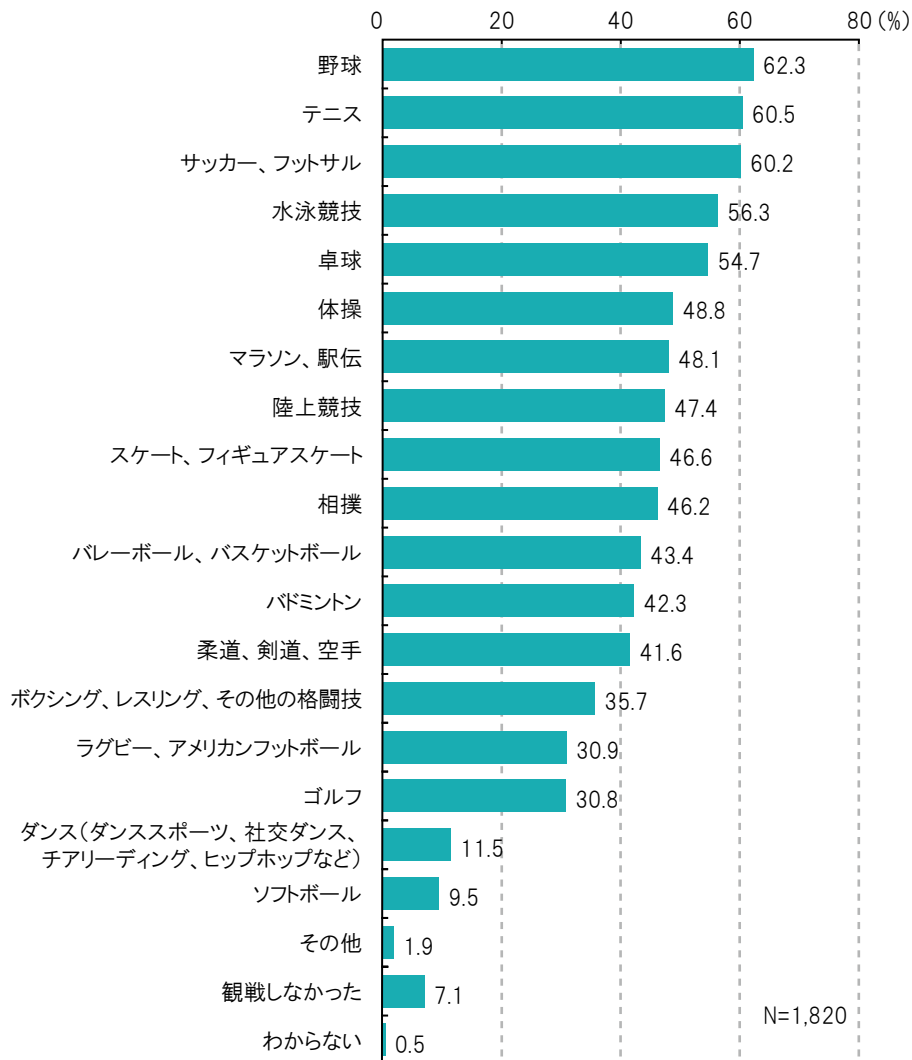
* 出典：「Increases in muscle sympathetic nerve activity, heart rate, respiration, and skin blood flow during passive viewing of exercise」（2013年、Rachael Brown, Ursula Kemp and Vaughan Macefield）

参考データ

この1年間のテレビ・ラジオ、インターネット配信等でのスポーツ観戦の有無（平成28年度）

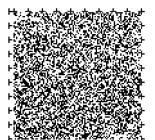


この1年間にテレビ・ラジオ、インターネット配信等で観戦したスポーツ（平成28年度）



図表出典：

「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成29年1月、生活文化局）



具体的な取組

様々な競技の紹介



オリンピック・パラリンピック競技の紹介

東京 2020 大会の開催を見据え、一人でも多くの方が関心を持って競技会場に足を運んでいただけるよう、ウェブサイトにおいて競技の内容やルールを図解等により分かりやすく発信していきます。

障害者スポーツの普及啓発ツール等を活用したPR

障害者スポーツの魅力を伝えるために制作した映像やパラリンピック競技等の紹介動画といった情報ツールを活用し、積極的なPR活動を展開していきます。

▶ 関連ページ P.99, 119

「TEAM BEYOND」を活用した魅力発信

東京 2020 大会を見据え、平成 32（2020）年以降も障害者スポーツが継続して社会に根付く土壌を作るため、障害者スポーツを応援する人を増やすプロジェクト「TEAM BEYOND」を展開し、多様なメディアを活用した大会情報の発信や、メンバーが参加できるイベントを行うなど、都民の競技会場での観戦を促すための総合的な普及啓発事業を実施していきます。

▶ 関連ページ P.83, 119, 120, 154

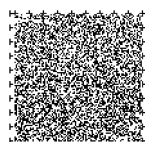
ラグビーワールドカップ 2019™ を見据えたラグビーの魅力発信

ラグビーワールドカップ 2019™ の開催を見据え、子供たちにラグビーの面白さを感じてもらうために作成したラグビー絵本や、ラグビーのルール紹介動画を活用し、ラグビーの楽しさや魅力を発信します。また、ウェブサイトやSNS等を活用し、都内で開催されるラグビーイベント等を積極的に発信していきます。

▶ 関連ページ P.53, 83, 153



ラグビー絵本



TEAM BEYOND

TEAM BEYONDは、パラスポーツ（障害者スポーツ全体を指して使用していません。）を応援する人を増やすため、東京都が平成 28（2016）年度から展開しているプロジェクトです。スポーツをする人も、みる人も、支える人も、あらゆるメンバーが一つのチームとなってパラスポーツを盛り上げていきます。

TEAM BEYONDには、パラスポーツを通じて、障害の有無をはじめとするあらゆる違いや壁を乗り越え、ひとりひとりの個性が輝く多様性豊かな社会に向かっていこう、という思いが込められています。

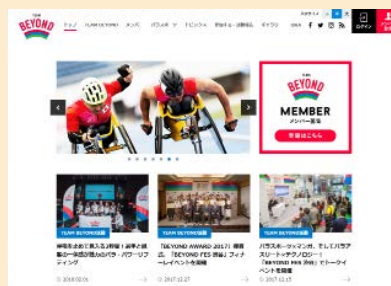
プロジェクトのテーマカラーには、様々な色を生み出す根源の色である赤、青、緑の光の三原色を採用しました。この3色は同時に、スポーツの競技会場（フィールド）をイメージさせる色でもあり、パラスポーツを通じて社会に新しいフィールドをつくっていく、という思いも込められています。

TEAM BEYONDウェブサイトメンバー登録した方には、大会観戦イベントなど、お得な情報を発信します。皆さんもぜひ登録して、一緒にパラスポーツを盛り上げてください！

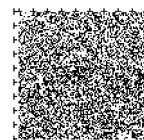
ウェブサイト <https://www.para-sports.tokyo/>



TEAM BEYOND ロゴ



TEAM BEYOND ウェブサイト



スポーツをみる機会の創出

現状と課題

都民のスポーツ実施調査（平成 28 年度）によると、この1年間にテレビ・ラジオ、インターネット配信等でスポーツを観戦した都民の割合は 92.3%に上りますが、スタジアムや体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがある都民は、39.3%に過ぎません。スポーツを実際に観戦すると、テレビやラジオ等からは感じるできない迫力と熱気があり、感動や興奮は一層高まります。そしてその体験には、人生に変化をもたらす可能性が秘められています。

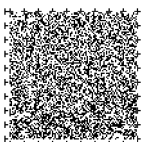
同調査を分析したところ、スポーツ観戦の頻度とスポーツ実施頻度には、正の相関関係があることが分かりました。スポーツを月に1回以上観戦している人のスポーツ実施率は 61.8%で、月に1回未満の人のスポーツ実施率 41.4%を大きく上回っています。スポーツが好きな人はスポーツを観戦することも実施することも多いと考えられますが、スポーツを観戦して自分もやってみようと思うことは少なくないはずで

プロスポーツの拠点や大規模なスポーツ大会に対応可能なスポーツ施設が集積する東京では、年間を通じて様々な試合や大会が開催されています。また、今後、世界のトップアスリートが集うラグビーワールドカップ 2019TM、東京 2020 大会も開催されます。

スポーツ実施率の向上に向けては、スポーツが好きな人はもとより、スポーツにあまり興味がない人に対しても、様々な方法でスポーツをみてもらうきっかけをつくっていくことが重要です。

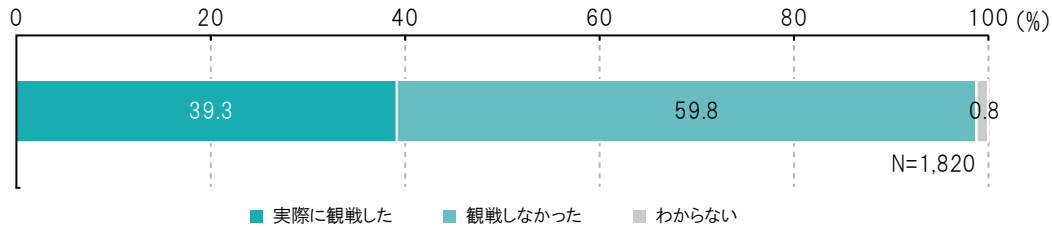
今後の方向性

**都民がスポーツをみる機会を創出していくため、
スポーツイベントの情報発信や観戦招待等を実施していきます。**



参考データ

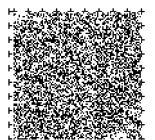
この1年間に実際にスポーツを観戦した経験の有無（平成 28 年度）



スポーツ観戦頻度別のスポーツ実施率（平成 28 年度）

性別	年齢層	スポーツ実施率 (%)	スポーツ観戦頻度（会場で観戦、テレビ等で観戦を問わず）別のスポーツ実施率 (%)							
			週3日以上	週に2日	週に1日	月に1～3日	3ヶ月に1～2日	年に1～3日	観ていない	不明
男性	18～39歳 (n=217)	47.5	62.1	53.8	62.9	45.3	38.1	29.4	26.1	46.2
	40～59歳 (n=343)	51.0	57.9	65.8	47.8	48.5	34.8	45.0	36.8	28.6
	60歳以上 (n=308)	64.0	68.4	77.3	65.2	55.9	36.8	41.7	60.0	35.7
女性	18～39歳 (n=220)	42.3	61.5	61.1	50.0	50.0	34.5	33.3	25.0	23.5
	40～59歳 (n=380)	58.4	67.2	62.7	62.5	59.6	42.9	60.0	38.5	57.1
	60歳以上 (n=352)	66.8	79.8	71.7	58.1	60.3	71.4	72.7	48.3	63.2
男女合計	18～39歳 (n=437)	44.9	61.9	56.8	56.9	47.7	36.0	32.0	25.5	33.3
	40～59歳 (n=723)	54.9	62.8	64.4	54.4	54.9	40.0	53.3	37.8	42.9
	60歳以上 (n=660)	65.5	73.8	74.8	61.1	58.8	51.5	56.5	51.3	51.5
全体 (N=1,820)	56.3	68.6	67.8	57.4	53.9	41.2	44.9	37.4	42.9	

図表出典：「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成 29 年1月、生活文化局）を基に作成



具体的な取組

スポーツをみる機会の創出



スポーツイベントの情報発信

東京都のスポーツ情報ポータルサイト「スポーツTokyoインフォメーション」や障害者スポーツ専門ポータルサイト「TOKYO障スポ・ナビ」等を通じて都内で開催される観戦可能な様々なスポーツイベントの情報を提供していきます。

▶ 関連ページ P.53, 58, 99, 100, 119, 142

オリンピック・パラリンピック競技のデモンストレーション

大勢の人が集まる場所で、アスリートによるオリンピック・パラリンピック競技のデモンストレーションを実施し、競技や大会への理解を深めるとともに、競技を実際にみることによる興奮を体感してもらいます。

▶ 関連ページ P.153

パブリックビューイングの実施

ラグビー日本代表のテストマッチ等にあわせ、ラグビーの普及・振興、ラグビーワールドカップ 2019™のプロモーションのため、都内区市町村と連携し、パブリックビューイングを行います。

▶ 関連ページ P.53, 79, 153

スポーツ大会への都民招待

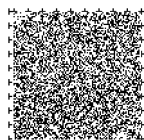
東京都が共催又は後援する大規模スポーツ大会について、主催者と連携を図りながら大会に都民を招待することにより、スポーツを実際にみる機会を創出していきます。

▶ 関連ページ P.154

「TEAM BEYOND」を活用した観戦促進

東京 2020 パラリンピック競技大会を満員の観客で盛り上げるため、観戦者が障害者スポーツの魅力を実感し、会場観戦のリピーターとなるよう、障害者スポーツを応援する人を増やすプロジェクト「TEAM BEYOND」のメンバーが一体となって競技大会を観戦し、応援する取組を展開します。

▶ 関連ページ P.79, 119, 120, 154



スポーツを支える人材の育成

現状と課題

スポーツには「する」「みる」だけでなく、「支える」という方法でも参加することができます。そして、スポーツを支える活動は、スポーツ都市東京を実現するために不可欠なものです。大規模なスポーツイベントには、大勢のスタッフやスポーツボランティアが運営等を行っており、参加選手が最高のパフォーマンスを行うためには、監督やコーチ等による指導・助言が欠かせません。東京マラソンでは、毎年約1万人のボランティアが大会の準備や運営にあたっており、東京マラソンの魅力の一つとして定着しています。こうしたスポーツを支える活動は、選手と同じように感動や興奮を得ることができるとともに、選手や他の支える人と強固な関係を築くことができ、何よりも選手の勝利や大会の成功に寄与したという誇りを感じられるものです。

スポーツを支える活動には様々なものがあります。(1)スポーツ指導者(コーチ、監督、インストラクター等)として選手の育成や参加者の指導等を行う、(2)審判員として競技の進行や判定を行う、(3)地域のスポーツクラブやスポーツ教室の運営等を行う、(4)保護者として子供たちのスポーツ活動の見守りや送迎等を行う、(5)スポーツボランティアとしてスポーツイベントの運営等を行う、(6)募金やチャリティを通じてスポーツ活動を支える、(7)サポーターとして選手やチームを応援する、これらは全てスポーツを支える活動です。

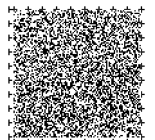
しかし、都民のスポーツ実施調査(平成28年度)によれば、1年間に関わったスポーツを支える活動(主に上記(1)~(6)を対象)を実施した都民は、13.1%に止まっています。平成24(2012)年度に実施した調査結果の11.0%からは増加していますが、スポーツを「する」、「みる」活動に比べると大変少ない水準となっています。

スポーツを支える活動には、競技ルールや専門的知識、体力や身体能力があまりなくても参加できるものが多くあります。支援を求めている選手や団体等も多く存在しています。将来にわたりスポーツを継続的・効果的に実施してもらうためには、スポーツを支えていく人材の育成が必要です。

今後の方向性

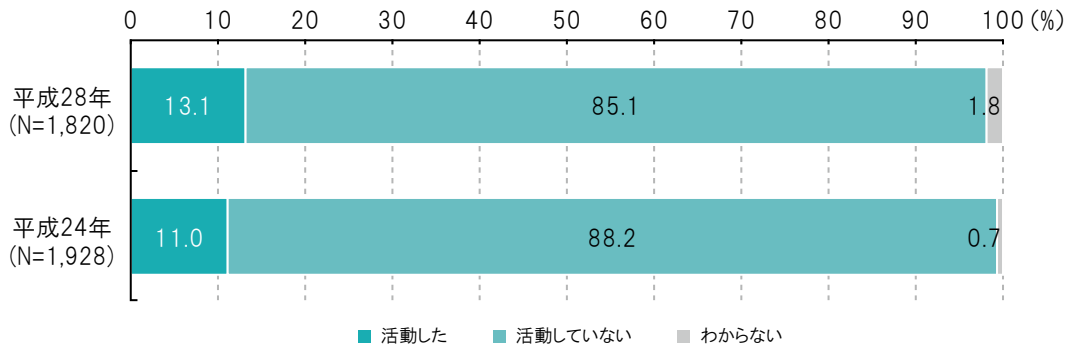
**ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020大会開催の機をとらえ、
ボランティア文化の定着を図ります。**

**スポーツ実施の裾野を広げるため、
幅広い都民が親しめるスポーツの指導者の育成を図ります。**

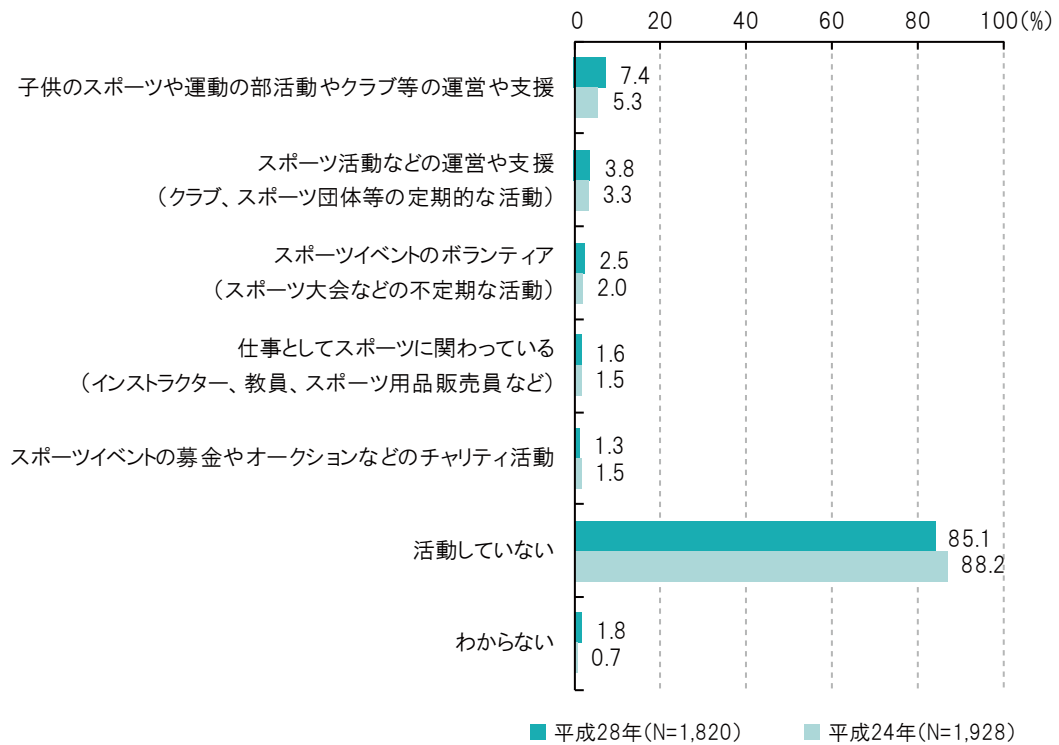


参考データ

この1年間に関わったスポーツを支える活動の有無（平成24年度と平成28年度の比較）

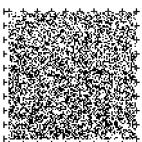


この1年間に関わったスポーツを支える活動（平成24年度と平成28年度の比較）



図表出典：

「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成29年1月、生活文化局）





支えるスポーツ

具体的な取組

東京 2020 大会に向けたボランティアの裾野拡大



多様な参加者の活躍促進

東京 2020 大会のビジョンのコンセプトの一つに「多様性と調和」があるように、大会後も見据え、多様な人材の活躍を促進していくことが重要であることから、東京 2020 大会においては、年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、様々な人々がいきいきとボランティアとして活躍するとともに、大会後もボランティア活動を継続できるような取組を検討していきます。

ボランティアの研修等

東京 2020 大会のボランティアとして活動する上で、それぞれの役割の重要性を認識し、必要な知識を習得するとともに、一体感の醸成を図るため研修を実施します。

また、ボランティアに参加する魅力を高めるため、研修に加え、SNSの活用などボランティア同士が交流し、ネットワークを広げる楽しさを感じられる施策等を検討するとともに、東京都と東京 2020 大会組織委員会が開催するオリンピック・パラリンピック関連のイベントに参加できるような方策を検討していきます。

なお、東京 2020 大会は、夏季に開催されることなどを踏まえ、暑さ対策をはじめボランティアが安全に活動できる取組を検討していきます。

大会のボランティア等に関する情報発信

ボランティアの魅力を発信するウェブサイト「東京ボランティアナビ」を活用し、東京 2020 大会組織委員会と連携のもと、東京 2020 大会のボランティアの活動内容、大会までのスケジュール、ロンドン大会活動事例等、過去の大会の状況を紹介します。

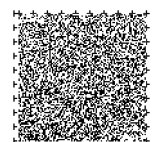
また、SNSなど様々なツールを活用した幅広い情報発信を実施していきます。

東京都ボランティア活動推進協議会

行政や民間団体などの多様な主体の参加を得て平成 27（2015）年度に発足した「東京都ボランティア活動推進協議会」において、広く都民にボランティア活動の魅力を発信するなど参加気運の醸成を図ります。加えて、東京 2020 大会の成功に向け、大会ボランティアに関する運用体制の検討等に取り組んでいきます。

ボランティア休暇制度整備事業

東京 2020 大会の開催を見据え、企業におけるボランティアへの参加気運の醸成及び裾野拡大を図るため、ボランティア休暇制度の整備を支援します。



首都大学東京におけるボランティア活動の支援

首都大学東京ボランティアセンターにおけるボランティア活動の支援等、次世代を担う若い世代がボランティア活動を体験し、貴重な経験を得ることができるような取組を推進していきます。

ボランティア活動気運の維持・継続

大会後もボランティア活動への参加気運の着実な維持・継続を図るため、その活動が東京 2020 大会を支えたことを実感できるよう取組を検討するとともに、大会後も見据えた運営体制を構築します。

スポーツの裾野を拡大する人材の育成



スポーツ推進委員研修会

各区市町村のスポーツ振興の重要な担い手であるスポーツ推進委員を対象に、地域のスポーツ環境整備、地域のスポーツのニーズに的確に応えるスポーツ推進委員のあり方等について広く見識を深めるため、スポーツ推進委員研修会を実施していきます。

▶ 関連ページ P.149



スポーツ推進委員研修会

生涯スポーツ担当者研修会

生涯スポーツに関係するスポーツ指導者及び区市町村の職員等を対象に、生涯スポーツの推進者としての資質向上を図るとともに、各団体の活動方針や各地区の行政施策に反映させていくため、生涯スポーツ担当者研修会を実施していきます。

東京みんなのスポーツ塾

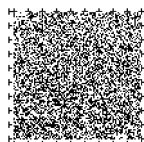
ニュースポーツの継続的な普及振興に取り組むことで、都民のスポーツ実施率の向上を図るため、「東京みんなのスポーツ塾」を開催し、競技種目別に指導者によるルール解説や競技方法の指導、実践練習、試合、指導者の養成講習等を実施します。

▶ 関連ページ P.127

障害者スポーツセミナー

区市町村の職員やスポーツ推進委員等を対象に、障害者スポーツ事業実施のきっかけとなるセミナーを開催し、身近な地域での障害者スポーツ事業を企画立案・実施する人材を育成します。

▶ 関連ページ P.127,150





支えるスポーツ

障がい者スポーツ指導員養成講習会

スポーツ推進委員や公立スポーツ施設職員を対象に、(公財)日本障がい者スポーツ協会公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催し、地域の障害者スポーツの現場で実際に指導や支援にあたる人材を育成・確保します。

また、初級障がい者スポーツ指導員等を対象に中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催し、地域の障害者スポーツの現場の中心的存在として、率先して指導や支援にあたる人材を育成・確保します。

▶ 関連ページ P.127, 150

「S&S」(スポーツ&サポート)の発行

障害者スポーツを支える方を募集している教室・イベント等の情報を収集及び掲載した情報誌「S&S」(スポーツ&サポート)を年4回発行し、都内の障がい者スポーツ指導員等に提供することにより、活動の機会を拡充します。

▶ 関連ページ P.127

障害者スポーツ人材の活動活性化のための研修会等の開催

活動経験が少ない障がい者スポーツ指導員等を対象に「リ・スタート研修会」を開催し、活動時の不安を解消し、今後の活動を促進するほか、障がい者スポーツ指導員等が一堂に会し、最新情報の提供や参加者間の情報交換やネットワークを構築する「障害者スポーツフォーラム」を開催するなど、障害者スポーツ人材の資質向上を図ります。

▶ 関連ページ P.128

障害者スポーツを支えることの魅力を伝えるDVDの活用

障害者スポーツを支えることの魅力を伝えるDVD「ステップ バイ ステップ! -スポーツがつなぐキズナ-」を、都主催事業等の教材として活用するとともに、区市町村、学校、関係団体においても活用を促し、支える人材の増加及び育成につなげます。

▶ 関連ページ P.128

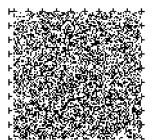


DVD「ステップ バイ ステップ! -スポーツがつなぐキズナ-」

障害者スポーツ研修キャラバン事業

障害者スポーツに関わる様々な団体が開催する研修会等で障害者スポーツをテーマとする講義を実施するなど、多様な担い手を育成していきます。

▶ 関連ページ P.128



スポーツ実施の裾野拡大に寄与する指導者養成の検討

年齢や性別、障害の有無等を問わず、幅広い都民がスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーションを広く指導・普及することができる人材育成に向けた取組を検討していきます。

▶ 関連ページ P.100, 128

用語解説

GLOSSARY

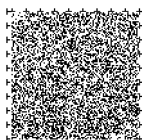
スポーツ推進委員

スポーツ推進委員（旧体育指導委員）とは、地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員であり、都内では、1,519人（平成29（2017）年10月現在）が区市町村から委嘱されています。スポーツ基本法の制定により、スポーツ推進委員は、実技の指導、スポーツに関する指導・助言だけでなく、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整を行うとして、更に大きな役割を担うこととなりました。国のスポーツ基本計画では、「国は、地方公共団体が委嘱するスポーツ推進委員について、総合型クラブや地域のスポーツ団体等との連携・協働を促進することができる優れた人材の選考と研修の充実を支援することにより、地域スポーツの振興をささえる人材の資質向上を図る」としています。

障がい者スポーツ指導員

障がい者スポーツ指導員とは、日本国内の障害者スポーツの普及と発展を目指して、（公財）日本障がい者スポーツ協会が公認する資格を有する指導者です。この資格には、初級・中級・上級の3つの資格があります。

初級の指導員は、障害者のスポーツ参加のきっかけづくりを支援する指導員であり、健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。資格を取得するためには、受講年度の4月1日現在で18歳以上の方で、同協会が認定した障がい者スポーツ指導員養成講習会を修了するか、同協会が認定する学校等で所定の要件を満たすことが必要です。



スポーツによる事故防止等の推進

現状と課題

スポーツを実施する人を増やしていくことは、スポーツ都市東京の実現に不可欠なことです。これまでスポーツをやってこなかった人が急にやり始めると、けがをしたり事故につながる恐れがあります。また、真夏の炎天下での長時間のスポーツは、熱中症が発生する危険性が高まります。

環境省が策定した「熱中症環境保健マニュアル」（平成26年3月改訂、環境省）によると、スポーツ活動による熱中症は、暑くなり始めの7月下旬と8月上旬に多く発生しているとしています。また、湿度が高ければ気温がそれほど高くなくても発生しており、6月にはまだ体が暑さに慣れていないために比較的低温でも熱中症が発生するとしています。

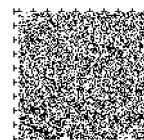
けがや事故、熱中症等は、正しい知識に基づき行動すれば防ぐことができるものですが、一方で、一度事故が起こると、活動を休まざるを得なかったり、最悪の場合には選手生命を絶たれてしまうこともあり得ます。指導者に対しては、管理責任が問われる可能性もあります。

また、近年、アスリート等による違法賭博や違法薬物、スポーツ指導者による暴力行為、スポーツ団体での不適切な会計等の事故も発生し、大きな問題となりました。

スポーツを心から楽しんでいくためには、正しい知識を身に付けるとともに、こうした事故等を未然に防ぐ対策を進めていく必要があります。

今後の方向性

**スポーツによるけがや事故の予防を推進していくとともに、
スポーツ指導における暴力行為等を根絶していきます。**



具体的な取組

けがや事故、熱中症等の予防推進



熱中症予防の推進

東京都教育委員会が策定した「体育・スポーツ活動中の熱中症予防マニュアル」に基づき、学校における体育やスポーツ活動中の熱中症予防を推進していくとともに、様々なスポーツイベント等においても、（公財）東京都体育協会や競技団体等との連携を図りながら熱中症予防を推進していきます。

地域におけるスポーツの事故防止

地域におけるスポーツの重要な担い手であるスポーツ推進委員や、地域スポーツクラブの運営スタッフや指導者等を対象とした研修会において、スポーツによるけがや事故防止等の内容を加えていきます。

運動部活動におけるスポーツの事故防止

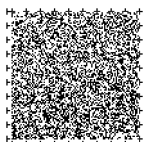
中学校・高等学校の教員を対象に講習会を実施し、運動部活動中の事故に対する基礎的な知識や対応策を身に付けさせ、運動部活動の指導者としての資質向上を図ります。

指導者の資質向上による事故防止

指導者の資質向上を図り、アスリートの競技中・トレーニング中の事故を未然に防ぐよう、テクニカルサポート事業における指導者講習会において、スポーツによるけがの予防に関する講義等を実施していきます。

自動体外式除細動器（AED）の設置促進

万一、スポーツの活動中に心停止が発生しても、適切な救命措置ができるよう、今後新たに設置される施設を含め、全ての都立スポーツ施設に自動体外式除細動器（AED）を設置していくとともに、その他、都立以外のスポーツ施設に対しても「AEDの適正配置に関するガイドライン」（平成25年9月、（一財）日本救急医療財団）に基づき、設置を推奨していきます。





支えるスポーツ

スポーツにおける暴力行為や薬物等の根絶



医・科学データの活用と指導における暴力行為の根絶

スポーツ医・科学の知見を活用したトレーニング内容の充実・改善に向け、スポーツ指導者の資質向上を図ることで、暴力的な指導の根絶に寄与していくとともに、（公財）東京都体育協会と連携を図りながら、スポーツ指導における暴力行為の根絶に向けた普及啓発に取り組んでいきます。

部活動における体罰の根絶

東京都中学校体育連盟及び東京都高等学校体育連盟との連携により、部活動における体罰の根絶を目的として、体罰等の許されない指導とあるべき指導の考え方等に関する講演会を計画的に実施します。

ドーピングや賭博行為等の根絶

東京アスリート認定制度における研修会等の様々な機会を活用し、違法賭博や違法薬物、ドーピング、八百長等への注意喚起を行うことなどにより、スポーツ・インテグリティの保護に向けた取組を推進します。

スポーツ団体の適正な運営確保

都内区市町村体育協会や競技団体等に対しコンプライアンス研修を実施する等、スポーツ団体の適正な運営確保に向けたガバナンスの強化を推進します。

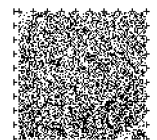
用語解説

GLOSSARY

スポーツ・インテグリティ

インテグリティとは高潔さ・品位、完全な状態を意味し、スポーツにおけるインテグリティはドーピングや八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正が無い状態を指します。スポーツに従事する者や関連団体が誠実に行動することにより実現されるものとして、世界的に注目を集めている概念です。

近年、「スポーツ・インテグリティ」の確保は国際的な課題になっており、我が国においてもトップレベルの選手による違法賭博や暴力行為、学校の運動部活動における体罰等の問題があります。このような事象を受けてスポーツ庁は、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、我が国のスポーツ・インテグリティを高め、クリーンでフェアなスポーツの推進に一体的に取り組むことを通じて、スポーツの価値の一層の向上を目指す」ことをスポーツ基本計画の政策目標として掲げ、「スポーツ・インテグリティ」の普及・啓発に向けて力を入れて取り組んでいます。



スポーツを支える都民の顕彰等

現状と課題

世界を舞台に活躍したアスリートには、東京都栄誉賞等をはじめとした賞の受賞だけでなく、様々な形でその栄誉を称えられる機会があります。一方、その活躍の裏には監督やコーチ等の指導者、大会を支えた運営者やボランティア等の支える人々が存在していますが、そうした人々の活躍が称えられる機会は必ずしも多くありません。

スポーツを支えてきた人々を称える顕彰は、地道で困難な支える活動を行っていく上で、大きな励みとなり、続けていく意欲を高めることにもなります。アスリートだけでなく、スポーツを支える都民に対する顕彰も重要です。

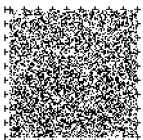
今後の方向性

大会で優秀な成績を残したアスリートの顕彰だけでなく、
スポーツ振興を支援している都民や団体の活動も称えていきます。

参考データ

東京都における主な顕彰・表彰制度（スポーツ関連）

名称	内容
名誉都民顕彰	社会文化の隆盛に功績があった方に対して、その功績を称え、都民敬愛の対象として顕彰しています。
東京都栄誉賞	特に顕著な業績により、広く都民に敬愛され、社会に明るい夢と希望と活力を与え、東京都の名を高めた方に対して、その栄誉を称え贈呈しています。
都民スポーツ大賞	世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収めた東京のトップアスリートの功績を称え顕彰しています。
東京スポーツ奨励賞	世界のトップレベルでの活躍が期待されるユース選手など、世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収めた東京のアスリートの功績を称え、更なる活躍を奨励し贈呈しています。
体育の日表彰	社会体育の普及・発展に著しい功績のあった方を「スポーツ振興功労者」、「スポーツ振興功労団体」として表彰しています。





支えるスポーツ

具体的な取組

スポーツを支える都民の顕彰等



スポーツ功労者の顕彰

東京都においてスポーツやレクリエーション活動の指導と組織化に努力するとともに、スポーツ振興のための諸条件を整備することに貢献し、社会体育の普及・発展に著しい功績のあった都民や団体等を「スポーツ振興功労者」、「スポーツ振興功労団体」として表彰していきます。

▶ 関連ページ P.164



スポーツ功労賞

特色ある取組等を行い体力向上の成果をもたらした学校の顕彰

都内公立学校の全児童・生徒を対象とした東京都統一体力テストの結果を踏まえ、体育授業や学校行事等を工夫・改善し、体力向上に向けた取組を行っている学校や体力テストの結果に著しい成果をもたらした学校を「子供の体力向上推進優秀校」として顕彰していきます。

障害者アスリートを支える指導者等の認定

東京の障害者アスリートを支える指導者等を東京都が認定することで、知名度等の向上を図り、競技活動の環境改善につなげていきます。

